

## 『ジェリー・パーネルの混沌の館にて』



ジェリー・パーネル 著  
 日経バイト 編  
 ISBN 4-8222-0664-5  
 1,890 円  
 日経 BP

### 20年以上コンピュータに触れてきた オジサン世代におすすめしたい懐旧の書

富樫 純一(大神企画代表、編集者)

20年前。私は大学のコンピュータ室でイエローモニターの IBM 5550 を利用し、BASIC を学んでいた。自宅では、発売されたばかりの NEC PC-98 シリーズを大枚叩いて購入し、N88 BASIC によるプログラミングに熱心に取り組んだものだった。初めて購入したハードディスクは、1MB あたり 1 万円近くもした。モデムによるキャラクターベースのパソコン通信を経て、NetWare Lite で構築した LAN。そして、TCP/IP ドライバーを苦心して組み込み、やっとの思いで動かした Mosaic……。

インターネットマガジンを購読しているような、私と同世代の方の多くは、きっと同じような経験をしているのではないだ

ろうか。

思えばこの 20 年、コンピュータが初めて家庭に入り始め、家電としてほとんどの世帯に普及するまでに至った激動の時代だった。本書『ジェリー・パーネルの混沌の館にて』には、そうした 20 年にわたるコンピュータの世界の移り変わりが、年を追いながらつづさに記されている。20 年前からコンピュータに触れてきたオジサン世代の方は、ぜひ本書で旧き時代のコンピュータを懐かしんでほしい。

もちろん、初めて触れたコンピュータはすでにウィンドウズ 95 だったという若い世代の方にもおすすめしたい。現代のコンピュータ社会がどう発展してきたのか理解できることだろう。

## 『IT 業界のためのプロジェクトマネジメント教科書』

### プロジェクトマネジメントの知識体系を、 IT 分野に焦点を合わせて解説した実践者の知恵袋

斉藤 彰男(本誌編集部)

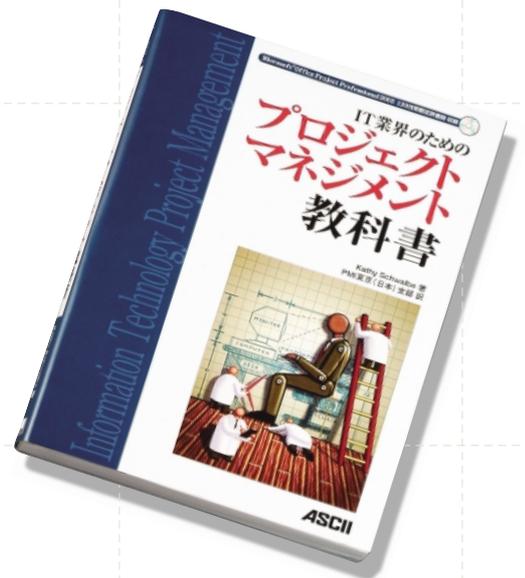
本書は、最近取得者が増えている資格「Project Manager Professional」(PMP)の教科書として、とくに IT 分野の学習者に向けた書籍である。

プロジェクトマネジメントの知識体系としては、多くの産業分野に適用できる PMBOK(A Guide to the Project Management Body of Knowledge)が事実上の国際標準となっており、解説書として『PMBOK Guide』(邦訳『PMBOK ガイド』)が PMP の資格認定を行っている PMI(Project Management Institute)から出版されている。本書は、この PMBOK のマネージメントフレームワークと、9 つの知識エリアについて、IT 分野における事例を多く盛り込みながら、よ

り具体的かつ実戦的に解説されている。

たとえば、タイムマネジメントの章では、スケジュール管理のためのネットワーク図、ガントチャート、クリティカルパス法、PERT といった技法が実際の適用例を示しながら丁寧に説明されており、まさに教科書的な内容となっている。

近年、とくに IT 産業においては、企業戦略を実現するプロジェクトマネジメントの重要性が認識され、この分野の専門知識を有する人材の育成に力を入れるようになりつつある。本書は PMP の資格取得を目指す人だけでなく、実際に現場でプロジェクトマネジメントに携わっている人にとっても「知恵袋」として大いに役立つことだろう。



キャシー・シュワルブ 著  
 PMI 東京(日本)支部 訳  
 ISBN 4-7561-4564-7  
 4,725 円  
 アスキー

本でしか得られない知識がある。  
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

## 『情報通信アウトルック 2005 IT大競争時代を迎えて』



情報通信総合研究所 編  
ISBN 4-7571-0146-5  
2,520円  
NTT出版

白書の中に見つけた執筆者の思い入れ  
新たな読み方を発見し、引き込まれる自分

喜多 充成(ライター〔科学・技術〕)

編集部から本書を手渡され、多少ひるんだ。オビには「主要トピックを完全網羅、最新トレンドを分かりやすく解説」、編著は業界を代表するシンクタンク…。書評のしようがあるのだろうか？ 重いし。

もちろんバラバラと開き始めれば、企画やマーケティング部門に必置の一冊であることがすぐわかる。“ググレ”ば何でも手に入る便利な世の中になった。しかし、キーワードが思いつかないばかりに重要な知識がすっぱり抜け落ちたままという危険も実は高まっており、その点で「完全網羅」の価値はますます高い。シンクタンク設立が1985年、出版開始が1998年というから継続性も文句なし。バックナンバーを揃え社長室に置けば、来客の

信頼を高める家具調度にもなる。

さらに読み進め、ある章で「むむむ」と引き込まれた。「平成の大合併」に伴う地方自治体の情報システム統合についての項である。実はこの2月、私の生まれ故郷の村(石川県鳥越村)も、名が消えた。その寂寥感が感応したのかも知れぬが、システム統合にかかわる当事者の苦労や苦悶が活字されている。加えて「合併が過疎地のITインフラ整備のラストチャンス」とのメッセージまで含む。そう、年鑑もメディアだったのだ。

つまりこの本は、X軸(網羅性)とY軸(継続性)に加え、Z軸(メッセージ性)の深みも重みもある1冊だ。編集部には返さず、本棚にしまっておくことにする。

## 『インターネットと<世論>形成 問メディア的言説の連鎖と抗争』

ネットは既存のマスコミに取って代わって  
オルタナティブ・メディアに成り得るのか

山川 健(ジャーナリスト)

率直に言って、社会学の素養がないと完全に理解するのは厳しいかもしれない。学術書だから仕方のないことだが、読み通すことで、今ネットで起きている現象が社会学の体系の中ではどのように分析されるのか、新鮮な視点で見ることが出来る。硬派な論文の第1部はともかく、ネットで起きた事件を解説した第2部「現場からの報告」は、専門用語も少なく、興味深い読み物になっている。

ただ、かつて大手新聞社でネットによる情報配信に携わった私自身の経験に照らすと、本書に流れる、ネットメディアが新聞など既存マスコミに取って代わるオルタナティブメディアだとする考えには疑問も残る。両者は影響し合いながらも

異なるものとして存在していくのではない。新聞はオールドメディアだが、新聞社のネット利用の中には、本書で取り上げている共同通信社のブログをはじめ、これまでにない取り組みも多い。マスコミを嫌悪するネットユーザーほど、その力を知っていることも事実だ。

それをきっかけにした事件の多さから「社会的存在感を増している」と、本書で意義付けている2ちゃんねる。しかしネタや嫌がらせのオフ会行動は、世論とは程遠い。2ちゃんねるは事件の場は提供したが、それ以上に意味のない雑音であふれている。本書の内容を著者らが2ちゃんねるに書き込んだ場合、ユーザーたちはどういう反応をするだろうか。



遠藤 薫 編著  
ISBN 4-501-62050-1  
3,675円  
東京電機大学出版局



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)